山都町立矢部小学校　学校だより

# 自分らしく～Be Unique～

矢部小HP　令和６年１２月１６日（月）　第３４号
２次元コード←カラー閲覧できます
校　長　池部　聖吾智（みわとも）

## 下馬尾交差点からいろんなことが見えてくる・・・だから今日も立つ！

ここ数日、下名連石線に乗っている2～3名の子が“バス内から”帽子を取って挨拶してくれる姿を見て、ホッコリした気分になります。児童を下ろした後、バスが給油のためガソリンスタンドへやってきました。給油の合間に、運転手さんは室内の窓ガラスを拭いて回られていました（左写真参照）。この光景を目にして、「曇りガラスであっても落書きはいけなかったなあ･･･」と先日掲載した記事（ハートマークにほっこりした）について反省しました。

私とM先生は、朝正門や交差点に立って見守りをしています。これは文科省から出された「働き方改革」に関する方策において「基本的には学校以外が担うべき業務」にあたります。しかし、朝から子どもたちの様子を観察することで見えてくるものがあります。さらに、それは児童理解につながります。朝から急ぎの用事があったり、出張・休暇等の日等立たない日もあります。無理なく、ふれあいを楽しみながらやっています！日頃の地域の方々の見守りに感謝しています。

## 還暦同志・たい平さんに同感

先週、林家たい平さんの還暦記念のラジオ番組を聴きました。彼は私と同じ年です。この年齢になるといろいろ考えることがあるという話でしたが全く同感です！具体的には、たい平さんの師匠・こん平さん（故人）の話でした。

たい平さんが師匠と呑みに行くとき、「（師匠は）トイレが長い」と思っていたら、こん平さんから「オレはみんなから知られている。オレが使った後にトイレが汚れていたら自分のせいでなくとも、こん平が汚したと思われる。だから自分が使った後は床までキレイにしてから出る。だから遅くなるんだ」と言われたそうです。それ以来、たい平さんもトイレに入ったら、床までキレイにしてから出るようにしているそうです。

今回の番組の内容をザックリと言えば、自分がかつての師匠の年齢となり、後輩落語家との関わり方を考えるようになったという内容でした。

いま還暦（一巡する）の意味を身をもって感じています。

## 矢部抄

7日（土）の夜、健軍にて「将来の山都町について語る会」と称し、“志ある”3名（某職場トップの方、外部からの目を持つ方、私）で呑んだ▼ナカナカ面白かった。詳細は述べないが、それぞれが持つ山都町への思いを出し合った。私の場合、「閉校」という悲しい経験の影響が大きく、「もう閉校は繰り返したくない」という強い思いがある。山都町の人口増・矢部小の児童数増は悲願である▼先日亡くなった芸能人のニュースで話題となった「ヒートショック」だが、私自身もこれまでに何度か入浴中に気を失ったことがある。ほとんどは、呑み会から帰ってきた後だった▼自身の経験から今回の報道は決して他人ごとではなかった。私の場合、一番極端な例は、気がついた時は朝5時近くになっていたということもあった。今回の事を受け、「呑んだ日は入浴しない」を徹底している。